

江南南小学校区ハートフル・ミーティングの概要

- 1 開催日 平成 22 年 5 月 8 日（土）
- 2 場 所 江南行政センター3 階会議室
- 3 参加者 39 人
- 4 会議の概要

○活気とにぎわいの創出

市民

地方都市の都市部はどこもシャッター街になっていると思うのです。そこで、市長のお話にあった「子育てや少子高齢化対策として、熊谷駅で保育園をやっており、今度は籠原駅にもそういうのを考えている。」ことと同様に、シャッター街、空いたスペースの活用策として、子育てモールを研究するのもいいと思うのです。

それは、今シャッター街になっているところを活用し、ショッピングができて、保育園・幼稚園があり、その近くには、例えば歯医者や小児科があり、そして、お母さん方、お父さん方が買い物あるいは通勤する上で、近くの籠原駅とか、熊谷駅・上熊谷駅を利用できるという子育てモールとか、クリニックモールとか、そんな未来モールというイメージでしょうか。

それで、熊谷ではそういうこともやっている都市なのだということで注目を集めたところに、「あついぞ熊谷」や観光振興も一緒にやれば相乗効果もでてくると思うのです。

市長

例えば熊谷駅の駅ビルには、メインのショッピングに加え、保育園やクリニックも入っています。ですから、ひとつの建物に色々な機能があるのも、立地条件によって必要な場合もあると思っています。

それと、例えば熊谷市の場合、来ることによって安らぎが生まれるような、星川というすばらしい自然、文化ゾーンがありますが、地元の商店街や立正大学との連携のもと、その活用策の一環として、市が支援しているスペースが鎌倉町付近に2箇所ありまして、絵画教室などをしたり、もちろん小さい子どもも来たりしています。こうしたスペースの中に、子育て支援拠点を立地したり、地産地消推進の場としたりするアイデアもいいので、そんなことも一生懸命考えていきたいと思っています。

市民

26 年目を迎えるブルーベリーの栽培は、江南で大成功した一つです。江南町時代から一生懸命やってきておりますので、これらの積極的な活用をお願い

いします。

それで、江南のふれあいセンターにはブルーベリーが山ほど置いてあり、売れ残ってしまうことがあります。そこで、江南にはブルーベリーだけでなく、ぶどう、柿、いちごなど、すばらしいものがありますので、ブルーベリーを始めとする農産物の振興策、そして観光の観点からも、箱田や妻沼地区のふれあいセンターに置けないでしょうか。

市長

地域の農産物がより多く生産されることによって、農業サイドからの地域のにぎわいにつながるものと思っております。本日配付したパンフレットにも、江南の場合には栗とブルーベリージャムなどが載っていると思います。こうした熊谷市の農産物等々、しっかりとPRしたいと思っております。

今年のB級グルメでは、江南の皆さんに頑張ってくださいました。ブルーベリージュースのかき氷・雪くまをつくっていただき、3,000人の方がブルーベリーの雪くまを食べたということですから、大変PRになったと思います。

それから、JAの直売所では、相互使用は難しいと思いますが、その直売所の運営の中で可能かどうかは調べてみたいと思います。

市民

小江川 1,000 本桜事業は、市の支援を受けて今年度発足しました。小江川地区は、田畑がわずかでほとんど山林というような状態であり、家で農家をする人は定年過ぎた方で、若い人は勤めのため、労力の減少で山が荒れております。そこで、せめて農地と山との間の道路の傍だけでもきれいにしようと考え、1,000本の桜を小江川地区へ植えようという目的で、10年計画で始めました。

若い木はCO₂を吸収し、新鮮な酸素を効率よく供給してくれると聞いております。それを契機として、さらに山の奥までもきれいにできれば、市民の癒しの場や子どもたちの学習の場になると考えています。

それから、ブロッコリーの栽培は、女性の健康教室という組織が自家用栽培したのが始まりで、時代の変遷とともに消費が伸び、作付面積も増え、非常に収入の多い南地区の畑作物になりました。合併前、ブロッコリー栽培に当たりましては、行政から定植機の購入や農協との共同で出荷場を設置していただき、ブロッコリー栽培も若い人たちの努力で今後とも発展するものと考えておりますので、市の支援をよろしくお願ひしたいと思ひます。

市長

私も初めて植樹祭に参加しましたが、多くの地域の皆さんが参加をされ、熱心に作業しておりました。今も作業が続いているのだと思いますが、地域

の皆さんが一つの目標に向かっていくということは大変すばらしいことであり、それに対して行政がどのように応援できるかということで、今回の協働事業が進んできたわけです。

皆さんの思っている1,000本桜構想は、単に1,000本の桜を植えようというだけでなく、生きた証を次世代に残したいという真心であると思っています。やがてこの小江川地域が熊谷の桜堤のように桜の中心地となり、自然の中に溶け込んだその美しさはまた格別なものがあるのだらうと思います。我々も一生懸命応援させていただきますし、大いに期待もしたいと思っています。

ブロッコリー栽培は、今では熊谷市全域で作付けされており、生産量は県内でも上位になってきましたので、我々としてもうれしく思っております。JAや普及所などと連携しながら、機械の導入等については補助している例もありますから、必要があれば検討したいと思います。

市民

熊谷が夕市を全国で初めてやれば、にぎわいの創出になるのではないかと思います。夕市は、仕事帰りの方々がフリーマーケット形式で農産物を購入できたり、普通のフリーマーケットとして色々と自由に販売できたりするもので、午後3時頃から7時頃までそういう場所を提供するのです。

それと、公園では商売できないようになっていますが、朝市でも構いませんけど、それぞれの地域で公園を開放していただきたいと思います。

市長

朝市ならぬ夕市ということですが、ただ野菜とかは朝の方がイメージ的によいという感じがするのですが。確かにフリーマーケットは公園などで午前中にやっている例が多いのですが、仕事帰りを狙うのにもぎわいをつくる意味での一つの方法かとも思いながら聞かせていただきました。

公園の使用につきましては、市役所東側にある中央公園をフリーマーケットで使用している例もあり、前もって御相談いただければと思います。

市民

確かに野菜はその新鮮さが売りですが、夕市は勤め帰りの人が買って夕食にするねらいがあります。また、農家の人にしてみれば、フリーマーケットでという考え方は、夕市で普通の店に卸せないB級品を場所代なしで安く提供できるねらいがあります。

市長

色々と工夫を凝らしてやっていきたいこう思っております。

○安全と安らぎのあるまち（温暖化対策）

市民

自転車事故が増えている中、自転車道をつくらなければいけないことになっていると思うのですが、昨年、国道17号周辺で実施した社会実験の結果について、ホームページなどで見かけないので、どうなっているのか聞かせてください。

市長

昨年の10月、社会実験は大宮国道事務所を中心に、国道17号の一定区間を2車線にして、自転車の専用レーンをつくることによる自動車の混雑の具合や、自転車通行量などのデータ収集を行い、とりまとめました。そして、やるとすればどういった整備ができるのか。例えば4車線を2車線にすることや、歩道が広いので半分ずつ歩行者と自転車の専用にするなど、いくつかの案をつくり、議会に報告した段階ですので、結論には至っておりません。

私とすれば、車線を減らすと渋滞が心配ではありますが、市役所通線は歩車道とも十分幅員がありますから、狭めることも可能かなという気もします。なるべく緑を増やして、環境に配慮した新しい道路整備ができないかという希望は持っています。

これから、県や有識者の方々と相談し、整備の方法を今年1年かけてよく議論していき、その結論が出たら、国と具体的な相談をしていきたいと考えています。

市民

身近な温暖化対策と相乗効果ということで、提案します。

まず、天然ガスはガソリンに比べ、25%のCO₂削減効果があり、かつ価格も約半分です。そこで、大量輸送によるCO₂の大幅削減への取り組みとして、幼稚園・保育所の送迎バスを復活していただけないでしょうか。

また、通園だけでなく通勤・通学に関しても、交通網が遅れている江南地区において、早い時期に市内循環バスの立案をして、効率のよい運営を図っていただきたい。

もう一つ、政府が盛んに言っているエコは環境のエコロジーのエコをとっているわけですが、熊谷市のエコは節約（エコノミー）のエコを兼ね備えた活動をされたらよろしいかと思えます。

二番目として、CO₂を削減する一方で、樹木の植樹、雑木林の整備により、CO₂の吸収と浄化作用が期待されるので、樹木を増やしてほしいのです。そこで、人生の節目に記念樹を植えたらどうでしょうか。その費用の捻

出について、市や、極端な例かもしれませんが、自動車 1 台売ったら、樹木 1 本 1000 円分の協力を自動車販売店にお願いするというのもどうでしょうか。

それで、植樹の場所ですが、荒川大橋から押切までの約 4km にかけて、国土交通省が堤防の頂上に整備した自転車道と市道の間にある道路（中段）に桜などを植えたらどうでしょうか。

今回のテーマである安らぎのあるまちということで、植物・樹木の鑑賞は人に安らぎを与え、さらにそこで散歩やサイクリングができれば、健康増進にもなります。そのためには、行政・市民が一体となった活動が重要であり、短期アクションや中長期計画に取り入れていただきたい。

市長

熊谷市では人生記念樹という制度があり、市内在住の方に、通常の半値程度の 1 本 1,000 円で記念樹をお渡ししております。昨年は、92 人に 127 本の記念樹を配付しました。また、緑の募金による基金から交付金を受け、昨年は江南総合公園に低木 800 本と高木数本の植樹をしております。

ですから、今提案いただいたアイデアの中でも、市が取り組んでいる仕事はあります。ただ、自動車の販売店に負担してもらうことについては、企業のイメージアップにもなるので、面白いアイデアであるとお聞きしました。

それから、熊谷市も天然ガス車は導入しております。最近ではゴミ収集車に天然ガスの車両を入れました。ただこれからは電気自動車の声が高まってくるかもしれません。

市民

2 歳の子どもを持つ母なのですが、江南地域では、母親同士が集まるときなど、県道や県道以外でも、自転車を安全に走らせる自転車用の道がないので、やむを得ず子どもを車に乗せて移動するため、余計な費用がかかってしまいます。なので、もっと自転車が安全に使えればいいという意見がたくさん出ています。

市長

先ほどの国道 17 号の話ですとか、県道太田熊谷線の桜町の交番の先に、自転車専用のスペースを確保しており、そういったことを少しずつ広げていきたいとは思っています。

江南地域は県道が幹線になっている場合が多く、歩道の整備が少しずつ実施されています。やはり、国や県と連携しながら、車だけでなく歩行者や自転車も安心して通行できる道路整備が、生活道路の面からも大切であると思っています。同時に、この地域は丘陵地帯であり、結構坂道でスピードを出

しすぎてしまうので、道路整備とともに交通安全対策も一緒に考えていかなければならないと思っています。

○市長のまとめ

今日の二つのテーマは、他の地域ではあまりなかった話題でありまして、そういった面では江南らしさが現れているのかなと感じました。色々いただきました御意見はすぐに形にできるものと、少し時間をいただかなければならないものもありますので、それは十分私どもで検討させていただきたいと思っていますところでございます。

いずれにいたしましても、今日御意見等出せなかった方も、メールなどの制度もありますので、そういった中で御意見をいただければありがたいと思っております。そういったメールや手紙などは毎日のように何通も来ております。もし御近所で何かありましたならば、遠慮なくお話しできれば、私どもも担当職員を向けるなり、お手紙で返事をするなりいたしますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

本日は平成 22 年度第 1 回のハートフル・ミーティングでございましたが、貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。これからも市民の皆さんと一緒に歩いていく姿勢を大切にしながら、行政の運営をしていきたいと思っておりますので、叱咤激励をいただきたいとこのように思っております。本当にありがとうございました。